

キャラクター名 木下 鶯	プレイヤー名
-----------------	--------

シンドローム	バロール バロール	ワークス	ドライバー	カヴァー	走り屋
オプション		年齢	26	性別	女
覚醒	探求	衝動	恐怖	初期侵食率	31 %
出自	有名人	経験	戦いの日々	邂逅	木下 梟

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚			意志	1		調達		
運転:	4		芸術:			知識:			情報: 噂話		1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ストライクモービル	白兵	1r		10		判定+4D

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
ストライクモービル		13		-1	全力移動350m

所持品	
コネ: 噂好きの友人	
コネ: 警察官	

合計装甲:	13	合計回避:	0
-------	----	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリス	消費
[11] 秘密兵器/トイボックス	P	N		
ソルレイド	P 好意	N 無関心		
木下 梟	P 信頼	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヘヴィギャロップ	2	2	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果: ヴィークルで白兵攻撃可能、判定- (3-Lv) D								
瞬速の刃	3	3	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 判定+ (Lv+1) D								
破壊の戦車	5	3	セット	至近	特殊	自動	-	
効果: ラウンド間搭乗、同乗状態者の攻撃力+Lv×2								
空間圧縮	1	2	セット	視界	単体	自動	-	
効果: 戦闘移動、Lv回/1S								
ゴズミックインフレーション	1	2	セット	-	範囲(選択)	-	-	
効果: 対象を範囲(選択)化、Lv回/1S								
コンセントレイト: パロール	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-Lv								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

ありとあらゆる鋼の馬を乗りこなし、最高速度全一ドライバーを目指す走り屋ドライバー。仲間内でつるむことなく、一人孤高に夢を追い求める性から彼女のことを知る者は少ないが、名の知れたドライバーたちに匿名で勝負を挑んだことは数知れず、オーヴァード・非オーヴァードに関わらずその道で有名なドライバーたちの間では一夜の思い出となっていることも少なくない。母親譲りの自信過剰で調子に乗りやすい性格である上に、それを裏付けるほどのドライバーとしての腕がある。その実力はある種才能と形容できるまでの異常なストイックさによって培われたものである。夢を現実を手練りさせるがごとく、最速に対する執着は彼女に確かなドライビングテクニックを与えた。しかしながら、そのストイックさや走り屋としての腕を他人にも要求する節があり、彼女に追い付かない他のドライバーたちの存在が単純に疑問である一方で、一人理想を追い求める孤独から生じる一抹の寂しさを紛らわす日々を過ごしている。

彼女が最速を志した原風景には、母の姿があった。控えめに言って、彼女の母親は底抜けの明るさを除けば、何もない何もできない何でもない人物であった。それなのににもかかわらず、母の周りにはいつも母を慕う人であふれていた。競走馬を扱う「木下牧場」の経営も適当で、世界に前触れなく現れたオーヴァードとやらにも特に理解をしている様子もなく、子供であった当時の自分でもわかるような嘘を平気で突き通そうとする母は、すべきことを何もしていないにもかかわらず多くの人に好かれており、自分もその中の一人であることに気づいた。しかしその姿は、勉学も部活も手伝いも家事もそつなくこなしているにも関わらず、誰一人として周りによってこない彼女と対照的なものであった。そんな折、母がオーヴァードとやらに覚醒した。母に話を伺ったところ、「幼い頃に思い描いたような、ふわふわとした思いで誰よりも疾く世界を駆けまわってみたい」と願ったらいつの間にか能力に覚醒していらした。これだ。私が一番欲しいものを持っている母に勝つためには、母が一番欲しいものを自分が手に入れるしかない。自分の人生というものは誰と競うものでもない。にもかかわらず、彼女は鋼の馬に跨ることを望んだ。その夢の通過点でオーヴァードに覚醒した。そんな劇的に人生を彩る覚醒ですら、ただの通過点には過ぎない。彼女に与えられたシンドロームは、最速を謳うエンジェルハイトでもハヌマーンでもなく、ヴィークルの扱いに長けたブラックドッグでもモルフェウスでもなく…皮肉にも、母と同じパロールのシンドロームであった。与えられたカードに悲観することなく、ただ淡々とトライアンドエラーを重ねた彼女は、「重力の能力によってじゃじゃ馬と名高いピーキーなヴィークルたちを完全に支配下に置き、機械のスペックを最大限引き出し切る」という母が目指して止まない騎乗スタイルの完成形を身に着けた。しかしながら、まだ最速ではない。目指すべき到達点にたどり着くには、レネゲイドウイルスについて造詣が深い他者との交流を図るべきである。彼女がUGNのイリーガルとしての仕事をこなすようになったのは、そのような思惑によるものであった。

公私はしっかりと分ける質なのか、音速すら置き去りにする走りイリーガルの仕事に持ち込むことはない。得意とするのはドライビングテクニックとパロール